

Title	カロンの「日本大王國志」について
Sub Title	A bibliography of Francois Caron's description of Japan
Author	幸田, 成友(Koda, Shigetomo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1933
Jtitle	史学 Vol.12, No.2 (1933. 5) ,p.151(323)- 162(334)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19330500-0151">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19330500-0151</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## カロンの「日本大王國志」について

幸田成友

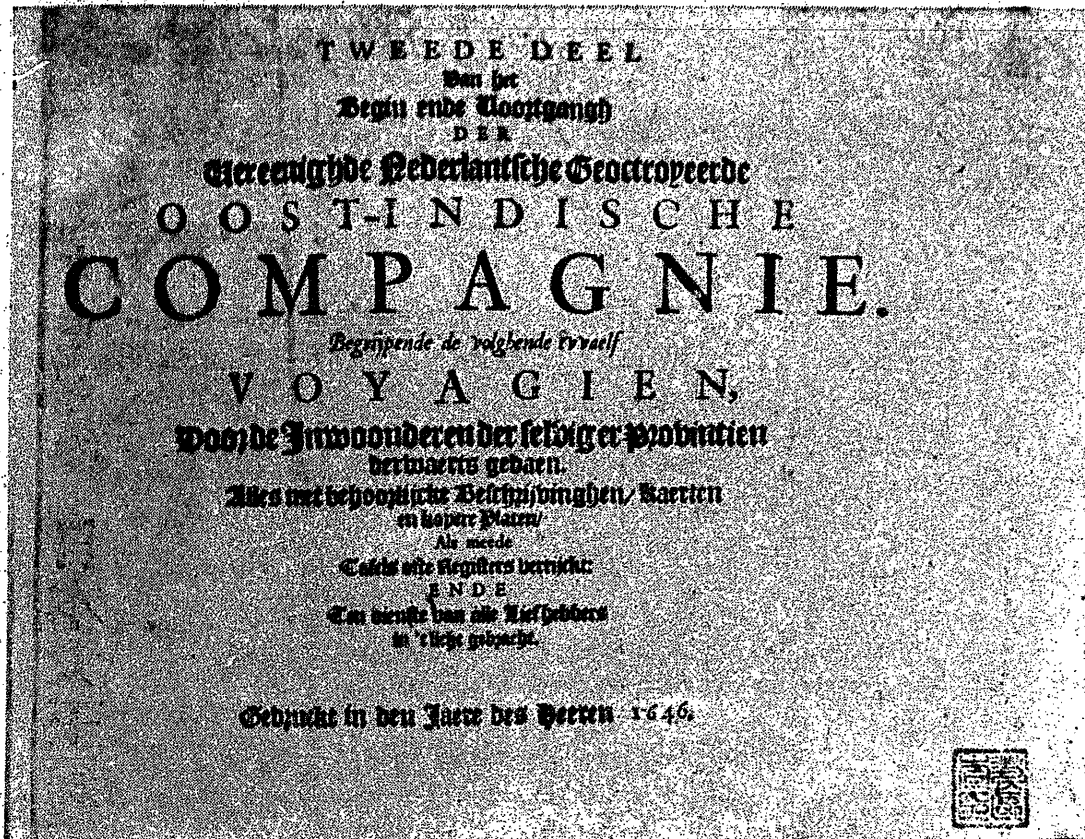
著者フランソア・カロンの傳記については、自分は嘗て文藝春秋に一文を載せた故、それに譲り、こゝには彼の著述「日本大王國志」につき、前文に略記した所を補つて置きたい。

(一)本書の原名は *Beschrijvinghe van het / machtigh Coninckrijk Japan, gestelt door Francoys Caron, / Directeur des Compagnies negotie aldaer, ende met eenige senteeckeningen / vermeerdert door Hendrick Hegenar* とあり。直譯すると、「強き王國日本の記事、同所に交易せる會社の支配人フランソア・カロン著、ヘンドリック・ハーヘナール補註」となります。ハーヘナールは商人頭の資格で一六三二年東洋へ赴任、一六三七年まで滞在、その間波斯・マラバル沿岸・カムボヂヤ・モラッカ諸島・臺灣・日本等を訪問した人です。

カロンの「日本大王國志」について(幸田)

(三三)

一五一



和蘭東印度會社の起原及經過第二卷(一六四六年刊)ボツク-氏藏

第十二卷 第二號 (三三) 一五二

前掲の書名は本書が一番古く出版せられた時、

即ち一六四五年出版の「和蘭東印度會社の起原及

び經過」Begin ende Voortgangh, / Van de / Ver-

eenighde Nederlantfche Geoctroyeerde / Oost-Indi-

fche / Compagnie... 2 Deelen, 1645. に收められ

た時の標題です。同書は横長の二冊物で、アムス

テルダムの人イザーク・コンメリン Isaac Com-

melin の編輯にかゝり、上巻を十一篇、下巻を十篇

に分ち、毎篇それ／＼著名な和蘭の航海記一種乃

至數種を収録してゐますが、その最後の第二十一

篇の中にカロンの著述があるのです。本書は頗る

珍本で、自分の知つてゐる限り、日本では東京商

科大學圖書館・臺北帝國大學圖書館及び友人ボツ

クサー氏の手許にあるだけです。商大及びボツク

サー氏所藏の分は一六四六年版、臺北にあるもの

は大鳥男爵の舊藏本で、上巻と下巻と刊年が違ひ、上巻は一六四五年版、下巻は一六四六年版ですから、俗にいふよせあつめ本です。和蘭の目錄學者キーン P. A. Fieole の説によると、本書には一六四五年版一種、無年號のもの一種、一六四六年版二種、都合四種あるようですが、タイトルページだけが相違し、本文は四種とも全然同一だといふことです。

(二)カロンの著述が單行本として出版せられたのは一六四八年を以て初發とする。書名は *Beschrijvinge/ Van het Machtigh Coninckrijcke/ Japan/ Vervattende/ Den aert en eygenschappen van 't Landt,/ manieren der Volckeren, als mede hare growelijcke/ wreedheydt teghen de Roomsche/ Christenen, gesteldt/ Door Francys Caron. T'Amsterdam, Voor Ioost Hartgers,.....1648.* 直譯すると「強き王國を含む、フランソア・カロン著、アムステルダムにてヨースト・ハルトヘル刊、一六四八年」となります。扉に頭蓋骨・砂時計・兩翼・龜を組合はせた圖があつて、*Myn Glas loopt ras* 「私のガラス計砂時計は早く進む」と題してある。生命は短いといふ意味でせう。この版本は東洋文庫及び友人ボックサー氏の手許にあります。本文七十八頁、内容は左の通り、

第一 カロンの記事一三三六頁 (二)には諸侯の氏名・居所・石高を明細に記した一節がありますが、本書にはその一節を極めて簡単に記してゐます。

カロンの「日本大玉國志」について(幸田)

(三三)

一五三

第二 日本においてローマン・カトリック教徒なるために、恐るべく又堪へ難き苦痛を被り、或は死に處せられた殉教者の歴史、ライエル・ハイスベルツ *Reyer Gysbertsz* 記三七―四九頁

第三 一六二六年十月二十日ダイリ内裏が日本の皇帝陛下を訪問せられた時、京キヤコの町で行はれた壯麗な大祝祭の記録 自由な和蘭國の東印度會社から前記の皇帝陛下に派遣せられ、是等すべてを目撃したコンラ

ート・克蘭マー *Conraet Kraemer* 筆記五〇―五五頁 二十日は廿五日の間違でせう。内裏は天皇、皇帝は將軍のことです。

第四 長崎の町長シラゲモンドノより總督に宛てた日本文の手紙の翻譯、商人頭ヤン・フハン・エルスラックより送附、一六四二年十月廿八日附五六―五七頁 手紙の大意は、日本へ來る和蘭人は、耶蘇教を信仰

するとせば、内密に信仰せよ、人の耳目に觸れしむるな。さすれば萬事貴下の希望する通りになり、困難な問題も起らぬだらうとあります。署名にエビヤ・シラゲモンドノ *Lebia Stragemondono* とありますが、シラゲモンドノとは如何にも耳觸りな發音です。本文を能く見るとシロエモンドノと綴つた所があります。出島町人即ち出島を築造するために資本を醸出した二十五人の町人の中に、海老屋四郎右衛門といふ者がある 吳博士譯ケンブル江戸參府紀行下卷三四六頁割註 シラゲモンドノは、確に海老屋四郎右衛門殿に相違ありません。

第五 日本貿易に關し、印度の總督から本社の理事會へ送つた手紙の拔書五八 手紙と同時に、町長でさうして出島の頭であるシラゲモンドノの手紙の翻譯を送るとあります。第四第五を併せて一篇を


Beschrijvinghe  
 Van het Machtigh Koninkrijcke

# J A P A N.

Verhantende

Den aerden eyghenschappen van 't Landt,  
 manieren der Volckeren, als mede hare grouwelijcke  
 wreedtheydt teghen de Roomsche Chri-  
 stenen, ghesfeldt

Door François Caron.



TAMSTERDAM.

By Joël Hanger, Boeck-vercooper in de Oude Dijk-  
 straat bij de West-Porte, 1652.

強き王國日本の記事(一六五二年版) 天理教圖書館藏


Beschrijvinghe  
 Van het Machtigh Coninkrijcke

# J A P A N.

Verhantende

Den aert en eyghenschappen van 't Landt,  
 manieren der Volckeren, als mede hare grouwelijcke  
 wreedtheydt teghen de Roomische  
 Christenen, ghesfeldt

Door François Caron.



MYN GLAS LOOPT RAS

TAMSTERDAM.

By Joël Hanger, Boeck-vercooper in de Oude Dijk-  
 straat bij de West-Porte, 1652.

強き王國日本の記事(一六四八年版) 東洋文庫藏

成すものといつた方が宜いかも知れません。

第六 和蘭東印度會社が支那貿易を獲得した場合、同社が日本にて受くべき利益・實效・及び便利についての短い敘述　レオナルド・カムペン Leonard Campen 著

第七 暹羅王國の政治・勢力・宗教・衣服・商業及びその他著名の事項に關する記事　一六三六年同地東印度會社支配人ヨースト・ショウテン Joost Schouten 著 六四一  
七八頁

以上七篇は悉く「起原及び經過」にあります。従つて一六四八年版のカロンは「起原及び經過」の抜刷で、大名の氏名・居所・石高の大部分を省略したものとといふべきです。尙チーレによると本書と全然同一な一六四九年版があるさうですが、自分はまだその實物を見ません。

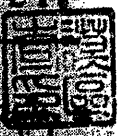
(三)一六五二年版は書名・内容・頁數・出版書林において(二)同様ですが、扉畫に二艘の帆前船を示してゐる。尙本文を熟覽すると、新規に組直したものと見え、活字やカットや組方において前版と相違を發見する。この實物は東洋文庫・ポックサー氏・奈良の天理教圖書館にあります。

(四)一六六一年版は内容も體裁も大分前版とは違つて來た。第一表題が *Rechte Beschryvinge/ Van het Machtigh Koninghrijk van/ Jappan, / Bestaende in verscheyde Vragen, betreffende des selfs Re-/giering, Ooophandel, maniere van Leven, strenge Justitie/ &c. voorgestelt door den Heer Philips Lucas, Directeur/ Generael wegens den Nederlandsen Staet/ in India, ende door de Heer/ Francoys Caron, / President*

A true Description  
OF THE  
MIGHTY KINGDOMS  
OF  
JAPAN  
AND  
SIAM.

Written Originally in Dutch by  
**FRANCIS CARON**  
And  
**JOOST SCHORTEN;**  
And now rendered into English by  
**Capt. ROGER MANLEY.**

LONDON:  
Printed by Samuel Brown and John de FE...  
the Sign of the Queens Arms, near the little  
North Door of St. Paul's Church, 1667.



藏氏一サクツボ 本譯英ノロカ

パレニウス日本王國記事（一六四九年版）ボックサー氏藏



カロン「日本大王國志」について（幸田）

over Comp. ommeſlach in Jappan, beant-  
wo ort in den Lare 1636./ Welcke nu door  
den ſelven Antheur oversien, vermeerderd  
en uytgelaten is de Fa-/bulouse ſentek-  
ningen van Hendrick Hagenaer, ſoo dat nu  
alles met zijn voo-/rige Origineel komt te  
accorderen, en met Kopere Figuren verri-  
jckt./ In 's Gravenhage, by Johannes Tong-  
erloo, Boeckverkooper, 1661. とこれを直譯  
すると、「強き王國日本の正しい記事。日本  
の政治・商業・生活方法・嚴重な司法その他  
につき、蘭領印度商務總監フィリップ・ル  
カスが發した種々の質問及び一六三六年日  
本の商館長フランソア・カロンの返答より  
成る。今度同著者によつて再校増補し、且



つヘンドリック・ハイヘナールの小説的補註を削除したるを以て、全部本來の原文と一致し、尙銅版挿畫を加ふ。ハイグにおいてヨハンネス・トンゲルロー、一六六一年刊」となります、カロンの「日本大王國志」としてはこれが一番完全で、本文九十六頁、前付八頁、扉畫に切腹の圖がある。自分はボックス1氏の手許で本書を一覽しました。

カロンの著述の出來た顛末とその年代とは、本書の表題によつて明白となつた。尙その趣は本書前付の中「出版者から讀者に對し」といふ一文にも認めてあります。今迄の版本には本文が續けて印刷してあるが、本書に至り、第一問何々と先づ質問を掲げ、つぎに答を載せるといふ風に印刷をしかへた。然らば答だけを讀めば前版と同一かといふと決してさうでない。本書第三十の問答は全く新に加へられたものです。それから附屬の諸篇中、海老屋四郎右衛門の手紙がない。耶蘇教徒であることを隠して商賣するのが宜いとは、耶蘇教徒としては憚る所があるから省いたものと見える。大名の名前・居所・石高は本版に至つて(一)の舊に復した。

本書にある銅版挿畫は(一)腹切の仕方、これは扉畫に同じ。(二)日本に於ける裁判の仕方、これは一枚に火炙り、逆釣り、磔の三圖を併せてある。(三)皇位宮殿の圖並びに謁見を許す仕方で、別に卷頭に日本帝國全圖が一枚あります。

右の再版で一六六二年の年號を有するものがある。その實物は板澤學士の手許及び天理教圖書館に收

Rechte Beschryvinge van het

tax op te moeten bezighen; met welke surplus hy sich eenigen tijt vergroot hadde / doch desen last / de Landbouwers te swaer vallende / klaegden door requeste aende hooge Overichept. Den Edelman of regent waert geordonneert niet sijn ghesachte om dese sijne misdaet den buych te slijden.



Maniere der Buycksnydinge.

Wooz3 siegen hadde 2 47 mijlen om de west / in 't rijk van Fingo, eenen broeder / die by den Koning van Fingo in dienst was. Doch eenen Dorn in Sasuma, die noch wintich mijlen weder was. Eenen Soone in dienst van den Koningh Kinocoum7, een dits Soon om de oost 10. mijlen van Iedo ghelegen / in den dienst van den Koning van Massame. Doch een Soon in den dienst van den Gouverneur van s' Keyers Casteel Inquano, misgaders noch twee Broeders / sijnde Soldaten van de Mas. ontrent Iedo woonende / sijnen jongsten Soone / was een enen rijken Coopman / die geen Soonen / maer een eenige dochter hadde / op sijn ernstige bede / van dar noch een kindt was / gegeben. Welchen Coopman by de Compagnie noch seer wel bekend is. Alle welcke personen / hoe verre / oost ende / west van mal-kanderen gelegen waren / op enen dach ende uer gestooven sijn / door desen middel aldaer gebuzichelijch: daer waert gereckent / in hoe veel dagen den bodt of post in Sasuma, daer den beersten was / reysen konde / wat maendt dach ende uer sulcx hoefen hem / welch den achsten dach der achste maent was. Daer welcke rechte-ningh

藏氏一サクッポ 「方仕の切腹」 畫挿の書向



Rechte Beschryvinge

Van het Machtigh Koninghrijk van

I A P P A N,

Bestaende in verscheide Vragen, betreffende des selfs Re-gierung, Coophandel, maniere van Leven, strenge Justitie &c. voorgesteld door den Heer Philips Lucas, Directeur Generael wegens den Nederlanden Staet in India, ende door de Heer

FRANCOYS CARON,

President over Comp. ommeslach in Iappan, beantwoort inden Iare 1636.

Welcke nu door den selfen Autsjeur obersten / vermeerbert en uytgelaten is de 3de bussenrekeningen van Hendrick Hagenaer, soo dat nu alles met sijn doo-rige Origineel komt te accorderen / en met Kopere Figuren derrycht.



In's Gravenhage, by Johannes Tongerloo, Boeckverkooper, 1662.

扉の (版年一六六一) 事記いし正の本日國王き強

藏せられ、去年十一月の丸善の展覽會にも出陳せられた。一六六一年版と相違する所は、第一の挿畫に對し「腹切の仕方」といふ題字が、六一年版には銅版に彫られてあるが、六二年版には活字で印刷せら

れて居る。尙六一年版と全然同一で年號の無いもの、及び六二年版と全然同一で年號の無いものがあると。これはチーレの説です。齋藤阿具博士の藏本は無年號の第二種に屬するものと認めます。

要するにカロンの單行本は二種に分れ、前者に三版、後者に四版ありといふことになる。加之英・佛・獨の翻譯もあり、如何に廣く行はれたかといふ點が想像されます。

英譯は大佐ロージャー・マンリー Capt. Roger Manley の翻譯で、一六六三年ロンドン出版です。小本で前付四丁本文百五十二頁、六一年版又は六二年版の蘭文を翻譯したものでせう。地圖及び挿畫は原版そのまま、を利用したものと見え、和蘭綴です。同じ本が一六七一年に再版されてゐますが、これには英語になつてゐる。二部とも東洋文庫及びボックサー氏の手許にあります。

佛譯に單行本は無い。一六七二年パリ出版のテীবノー M. Thevenot の「旅行記集」第二部同書には全篇を通が、七頁付に出たのが最初でせう。一六六一年版か六二年版の蘭文を翻譯したことは、三枚の挿畫と本文の

問答體であることによつて證明されますが、日本地圖は原本にあるものとは相違してゐます。この佛譯文は一七二〇年アムステルダム出版「北方旅行集」卷三五七頁に再録されてゐますが、同書二八六頁にはカロンが佛國の宰相コルベールに上つた「日本との商業開始についての覺書」*Memoire pour l'establisement du commerce au Japan, dressé suivant l'ordre de Monseigneur Colbert par Mr. Caron* と題する興味深い意見書と、その附屬文書とがある。

獨譯は一六六三年ニールンベルヒ出版、譯者をクリストーフ・アーノルド Christoph Arnold とす。これは一六六一年版或は六二年版の翻譯の上に、更にヨハン・ヤコブ・メルクライン Johann Jacob Merklein の東印度旅行記を加へ、小本ではあるが前付二十頁、本文五百二十頁、後付(索引)二十二頁に上り、書名を「フランソア・カロン及びヨースト・ショウテン、日本及び暹羅二強國の眞實な記録」といつてゐる。然るに本書は一六七二年に至り、大增補を加へて再版せられた。新加諸篇の中にヘンドリック・ハメル Hendrik Hamel の「蘭船スペルヴェル號朝鮮王國難船日誌」があるため、表題を變じて「日本・暹羅・及び朝鮮三強國の眞實な記録」とし、前付十一丁、本文千百四十八頁・後付十八丁の厚冊となりました。ポックサー氏はこれを二冊に分本したものを所藏して居られます。

それからポックサー氏から注意を受けたカロンの羅匈譯について一言します。醫學博士ベルンバルツス・バレンニウスの「日本王國記事」*Descriptio/ Regni Japoniae/ cum quibusdam/ affinis materiae/ ex*

varis auctoribus collecta/ et in ordinem redacta per/ Bernhardum Varenum/ Med. D. がそれだといふのです。同書は一六四九年アムステルダムのエルゼビルの出版で、小本ではあるが印刷の鮮明な善本です。前後二部に分れ、第一部は前付四十八頁本文二百八十七頁、第二部は前付八頁本文三百二十頁より成り、第一部の本文の大部分一〇頁を占めるのが日本王國記事で、二十八章に分れてゐる。その第十一章にある諸侯の氏名・居所・石高は成る程カロンの著述の通りです。尙仔細に調査して見たらその他にもカロンの文句をそのまま、翻譯した所もありませう。然し全體がカロンの翻譯といふ譯では決して無い。パレニウスの引用書目合計十一部、その第六にカロンの著述は見えますが、「日本王國記事」はカロンを主とし、その他の書物から編輯したものといふのが適當でせう。之に反して第一部の附録三篇の中第一は克蘭マーの「大祝祭の記録」<sup>(三)</sup>、また第三はシュウテンの「暹羅王國記事」<sup>(七)</sup>の逐字譯です。

以上はチーレの解題と自分の手帳とを土臺とし、カロンの諸版本について説明を試みたまでです。自分は先輩友人諸氏の厚意により、以上の諸版本の大部分を寓目するの幸を得ましたが、同時に見たのではなく、それ／＼時を違へて見たのですから、比較研究について不十分な點が多々あるだらうと考へます。  
(昭和八年一月再稿)

チーレの解題に二種あります、甲を「和蘭の航海日誌に關する紀要」*Mémoire Bibliographique sur les Journaux des Navigateurs Néerlandais. Amsterdam, 1867* といい、乙を「地理及び人文に關する和蘭書籍目録」*Nederlandsche Bibliographie van Land.*

カロンの「日本大王國志」について(幸田)

on Volkenkunde, Amsterdam, 1884 といふ。前者は和蘭で出版になつた種々の航海日誌につき、又後者はその著者のアルフ・ハベット  
順により、解題を施したもので、兩方とも書誌學上屈指の良著です。

(追記) この一篇を史學會へ差出した後で、丸善の櫻井君からカロンの獨譯二種及びその露西亞譯といふものゝタイトルペーヂ  
の寫眞を贈られた。露西亞譯は一七三四年サント・ペテルブルグ學士院出版で、櫻井君の手紙に「これはハー・ハー・ヘナール  
の翻譯致したるものにて、露西亞文に現はれた日本關係の最初のもの」と承知致居候」と説明してある位故、希本に相違ありませ  
ん。然しハー・ヘナールがカロンを翻譯したといふことは信じかねます。ハー・ヘナールには同人自身の「東印度諸地方旅行記が」  
ありますから、或はその翻譯か。この露文の標題には日本に關する記事の三種とあるやうですが、何分露西亞語を了解しませ  
んから、判然したことは申しかねます。